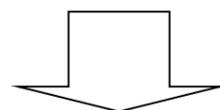


令和3年度授業改善推進プラン

教科 [ 英語 ] 科

学習状況の実態・調査結果等を踏まえた内容別・観点別分析表

1年	2年	3年
<p>きめ細かな指導のため、1学期初期より少人数での指導を行っている。小学校での外国語活動により簡単な英語表現や単語などは理解している。ほとんどの生徒が積極的に言語活動に参加する一方で、読むこと・書くことに関しては入学時の段階ですでに大きな差が出ている。苦手意識をなくすためにも、小学校での経験を生かしつつ4技能をバランスよく伸ばすために、段階を踏んだ指導をしていく。</p>	<p>昨年度同様、少人数クラスで授業を実施している。提出課題には真面目に取り組む生徒が増え、授業の形態を理解し素早く活動に取り組めるようになってきた。ポイントとなる基本文は理解できるが、過去に学習した文との区別がつかなくなる生徒もいる。基本文の定着を図るための活動を繰り返し行い、既習文を使って身の回りのことを表現できるように指導する。</p>	<p>昨年度同様、成績の二極化が見られる。基礎の定着が図れていない生徒もいる。生徒の習熟度を考慮し、生徒同士の教え合いや助け合いができる少人数授業を工夫している。定期考査を実施すると、基本的な問題（文法、語彙、リスニング、比較的短い量の読解）には対応できるが、表現力（語順、構文知識）が不足しているため英作文が苦手な生徒が多い。また、おとなしい生徒が多く、発言する生徒に偏りが見られる。</p>



指導方法の課題分析と具体的な授業改善及び補充指導の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策
1年	<p>音を聞いて話の内容を理解することはだいたいできる。キーセンテンスを自然な会話の中で繰り返し、音声で理解したものを音読等で文字と一致させる練習を繰り返していく。文字を書くことは最も不慣れであり、生徒によっては時間がかかるので、英文の書き方を丁寧に指導し、ノートチェックを通して誰が見ても読める英文を書けるよう指導している。また、洋楽を歌う、チャンツ、ゲームなど、どの生徒も楽しく言語活動に取り組めるよう工夫している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読を丁寧に言い、文法のきまりを音で理解させる。</li> <li>反復練習を通して基本文や単語の定着を図る。</li> <li>スペリングコンテストを毎学期行い、基礎単語や基本文の定着を図る。</li> <li>スピーチや発表活動の機会を多く取り入れ、英語を話すことや人前に立つことに慣れさせる。</li> <li>各学期にスピーチの発表を行い、書いたり、話したりする表現力を付けさせる。</li> <li>家庭学習として、ノート作成、ワークの取組を定期的に行わせる。</li> <li>指導と評価の一体化を目指す。</li> </ul>
2年	<p>①ターゲットセンテンスの意味と文の構造は理解できているようである。しかし、ターゲットセンテンスをどのような場面で使えばよいか、まだあいまいな生徒が見られる。 ②全体的にリスニング、リーディングはある程度できるが、単語のスペリングや英文を作成する際の文法上のミスが見られる。 ③英語での「やり取り」の力は帯活動によって身に付いてきた。しかし発表に関しては声が小さく、聞き手を意識したパフォーマンスが身に付いていない。</p>	<p>①ターゲットセンテンスを導入する際は、しっかりとした文脈・場面を与える。その後、帯活動等を利用して継続的にターゲットセンテンスを活用できるように授業を工夫する。 ②授業では発話を中心にした活動を行うが、家庭では復習する際に書いて覚える課題を与える。スペリングコンテスト、ノートチェック、ドリルワークなどを活用して生徒が落ち着いて書くことに取り組めるようにする。 ③ペアでリテリングすることから初めて、段階的に相手を意識して発表できるような活動を与える。スピーチを課題として与える場合は、評価基準を明確にし、生徒が無駄なく努力できるようにする。 ※パフォーマンステスト、定期考査等の評価活動の後には、生徒が自らの学習を振り返る機会を設ける。生徒自身が自分の学習をコントロールできるようにする。</p>
3年	<p>全体的によく取り組んでいる生徒が多い。一方で、アルファベットの音と文字が一致していない生徒も少数いるので、様々なバリエーションでの個々による音読活動およびペアワークやグループワーク等を取り入れ発話量を増やした。学習活動において、受験を意識し、目標が決まったことで意欲が上がってきた生徒が多い。積極的な発話が見受けられるようになった半面、間違いを恐れるため単語のみの答えになったり、主語動詞をいれた一文での答え方をすると、動詞の変化を忘れていたりする生徒もいる。フルセンテンスで答える練習と家庭学習での基礎の定着を図る必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読指導の充実を引き続き図る。</li> <li>ALT とのティームティーチングを活用し、英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。</li> <li>毎時間の指導のねらいをはっきりさせ、基本的な事項の定着を図る。</li> <li>身近な事柄について、まとまった文を書かせたり、発表する機会を計画的に取り入れさせたりして「自己表現力」を高め、発話の抵抗感をなくす。</li> <li>英作文においてつまづいている生徒には、易しい日本語に正してから表現活動を行うよう指導する。</li> <li>活動を多く仕組み、生徒が能動的に学習できるよう計画する。</li> <li>なるべくオーセンティックな教材・身近な話題を授業に取り入れ、生徒の興味を引く。</li> </ul>